

同朋和敬

沖縄修学旅行&同朋オープン・フォーラム報告



2月9日は、手塚治虫さんのご命日だった。医者への道をあきらめ、夢だった漫画家への道を決意し1946年にデビューした。生み出した作品は「鉄腕アトム」「ジャングル大帝」「ブラックジャック」「火の鳥」「ブッダ」など700作以上。マンガの神様と呼ばれた。今年が生誕90周年にあたるので、改めて手塚さんが子どもたちに伝えたかった思い―戦争体験を元にした命の尊さや平和の大切さ―を知る機会が持てればと思う。誕生日の11月3日が「まんがの日」、命日の2月9日が「漫画の日」に制定されている。

同朋高等学校長 梅田 功

学校通信

2
Vol.209

同朋和敬 2

学校通信

Vol.209 17 FEB. 2018

同朋高等学校 学校通信編集委員会 久保田 平野 安藤 名古屋市中区稲葉町70-1 TEL 052-411-1159

卒業おめでとう 卒業生へのメッセージ



私が高校時代の恩師からももらった言葉を贈ります。
《まず磨きなさい。自分の「善」とするものを専一に磨き続けなさい。十年続ければ一流になれる。気がつけばそれが「自信」と呼べるものになっている。そしてそれがあなた自身の「誇り」となっているはずである。乱戦を勝ち抜く力は確固たる「誇り」である。》
誤解を恐れず言うなら、皆さんに足りないのは「誇り」ではないだろうか。次に会い、刮目すべき日を待っています。

いままでのあなたと素晴らしい時間を過ごせたことに感謝しています。この3年間、あなた達から多くのことを学びました。ありがとうございます。
これからのあなた達か、(結果の悪いしただけを大切にすることはなく)「全部やりきって悔いがない」そんな風に思える生き方をしてほしいと願っています。大丈夫、うまく行くよ!
人生一度きりです。気楽に真剣にね!

高校生活、また、18年間はどうか?今までにさまざまなことを経験し、多くのことを学び、成長してきたと思います。これまでに培ったものは皆さんの宝物です。これから先歩いていく中で、悩み迷うことがありますが、この宝物に自信を持ち、どんなときでも高みを目指していきましょう。一歩踏み出し、新たな道を歩んでください。可能性は無限大!人生は自分次第!!

301担任 小堀 能任

302担任 鶴岡 昌毅

303担任 山本 明里

卒業する皆さんへ
皆さんは同朋に入学して3年間は楽しかったでしょうか?それぞれ感じ方は違うでしょうが、「面白かった」とか「楽しかった」とかはいい思い出となり、成功するためには必要なことだと思います。これから、辛いことや困難なことにつづいたら「プラス思考」で臨んでください。特に、スポーツに携わる人は、「プラス思考」で練習すれば、きっと試合でよいプレーにつながるでしょう。
最後に皆さんとは2年間の付き合いでしたが、皆さんの笑顔を見てくれて本当に有難うございました。皆さんの笑顔は私の財産として大切にしておきます。
See you again!!

オーストラリア・ホームステイの引率に行かせてもらい気付いたことがあります。オーストラリア人は幸せそうに過ごしていますが、その理由の一つは言葉だということです。彼らはBeautiful! Nice! Cool! Lovely! Awesome! などのポジティブな言葉を非常によく使います。不思議なものでポジティブな言葉は言われる人はもちろん、言う人も幸せになります。みんなも意識してポジティブな言葉を多く使うようにしてみてください。

これからも「自分づくり」はまだ続きます。自分という人の価値は、周りがつくるものではなく、自分がつくるものです。人と比べる必要はありません。自ら信じて進んだ分が「自分」となります。その最先端の自分であなただけの周りを笑顔で溢れさせましょう。
3年間たくさんのことを学ばせていただき、一緒に過ごした時間は私にとっても素晴らしい時間でした。本当にありがとうございます。

304担任 高橋 誠一

305担任 嶋崎 雄一朗

306担任 名知 佑基

思いのほか早く過ぎた3年間ではなかったでしょうか。クラスや学年で、自主活動や行事などをとおし、成長と共に培ったものは一生の宝となることでしょう。
決して、楽しかったことばかりではないけれど、この卒業時期になると走馬灯のように過りすぎてすべての皆さんの将来につながる礎となることでしょう。それぞれの旅立ちに乾杯!

ノミは何度も壁にぶつかると、その高さまでしか跳ばなくなってしまう。本当はもっと跳ぶ力があるのに。みんなが壁だと思っているもの、それは自分が作った思いこみかもしれません。
ないものに不満を言うのではなく、あるものに感謝をしましょう。自分を信じているいろいろなことをやってみよう。必ずうまくいきます。本当はその力があるから。
やってみたらできるようになる。みんなと出会って、そんな体験をさせてもらうことができました。本当にありがとうございます。

この先、社会に出ればきつと辛い事がたくさんあります。ときには理不尽なこともあるかもしれません。そんなときでも、逃げ出さず辛抱強く取り組んで下さい。そうすれば自然と気づき生まれ、自らの成長へと繋がるでしょう。また、謙虚な姿勢があれば、その成長はより大きなものになるはずですよ。
マイナス(-)に進む日よりプラス(+)-に進む日が多く、いつか「自分」という変数xを無限大∞にして下さい。ひとまわり大きく成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

307担任 榎木 哲郎

308担任 高岡 寛貴

309担任 梶川 千友

息子が学校で習ったと歌ってくれたフレーズに思わず涙しました。みなさんに贈らせてください。
「その距離を 臆より、どう飛んだか どこを飛んだのか / それが一番大切なんだ」
「人は思うよりも、ひとりぼっちじゃないんだ / すくそはのやさしさに 気づかずにいるだけ」
AKB48「365日の紙飛行機」より
他と比べてない、あなたはステキです。自分を信じて進んでください。多くの人が関わって今のあなたが存在します。心強い味方を感じながら生きてください。

『今、いのちがあなたを生きている』という言葉はどんな意味なのでしょう。あくまでも私なりの解釈ですが、『自分という存在は、多くの人や周りの環境に生かして頂いている』という意味ではないかと思えます。当たり前の生活は誰かの当たり前ではない支えによって成り立っています。ぜひ感謝できる幅が広い人になってください。ありがとうございます!

この3年間で、あなたたちは成長しました。そしてその成長は、たくさんの「おかげさま」に支えられてきました。ひとり成長してきたのではないことを、言葉や感覚としては分かっているでしょう。でも、まだまだまだまだ……。
あなたたちが本当に自立したとき、多くの見えない力に支えられていたことに気付いてください。成長し、卒業していくあなたたちに、さらにたくさんの「おかげさま」があることを願っています。

310担任 久保田 彩

311担任 松尾 良亮

312担任 寺町 健

Schedule (行事予定)

2月		3月	
19 月	2年生音楽科午前授業 見聞の日	8 木	1,2年生健康診断
20 火	2年生音楽科年末考査(～26日) 午前授業	9 金	2年生音楽科代休
27 火	学年末考査(～3月6日)	13 火	1年生家庭学習 2年生自主活動日
28 水		14 水	家庭学習
3月		15 木	進級判定発表
1 木	2年生音楽科代休	16 金	家庭学習
2 金	2年生音楽科修学旅行(～8日) 2年生食育講演	19 月	修了式
3 土	数学検定	4月	
7 水	1年生自主活動日 2年生家庭学習	5 木	在校生登校日
		6 金	入学式
		9 月	始業式

平成29年度「愛知県私立学校経常費補助金」の交付金額が決定しました

保護者のみなさまには、ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。また、助成金署名や地域ごとに開催された「地域別県民文化大祭典～オースタムフェスティバル」など、私学助成拡充の運動にご尽力下さいまして厚くお礼申し上げます。
平成29年度の同朋高等学校への愛知県私立学校経常費補助金交付額が下表のように決定いたしましたので報告いたします。みなさまのご協力により、例年並みの補助額となりました。このことに感謝申し上げますとともに、教育条件の層の充実と財政の安定化に引き続き努力してまいります。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

●同朋高等学校「愛知県私立学校経常費補助金」交付決定額

年度	一般補助金	特別補助金	事務費	総額	生徒数	1人あたり補助額
平成29年度	464,339千円	16,793千円	1,305千円	486,237千円	1,294人	375,763円
平成28年度	444,248千円	21,513千円	947千円	465,176千円	1,243人	374,237円
平成27年度	445,487千円	19,764千円	937千円	465,064千円	1,225人	379,644円

修学旅行

修学旅行を振り返って

2年生普通科商業科の生徒が3団に分かれて、「沖縄修学旅行」に行つて来ました。途中風が強かったり、雨が降ったりということもありましたが、概ね天気も良く、亜熱帯の沖縄らしい気候を楽しむことが出来ました。日ごろの学校生活を離れ、豊かな自然と文化を持つ沖縄でのさまざまな体験は、生徒にとって貴重なものとなりました。

初日は沖縄平和ネットワークの方にガイドをして頂き、南部戦跡等をめぐりました。平和祈念公園の資料館、平和の礎、ひめゆりの塔と資料館「ガマ」での平和式典など、事前に学んできたこと、実際に目の前にあることをリンクさせ、学びを深めていきました。2日目のコース別研修は、シュノーケリングやシーカヤックなどの自然体験や、三線



やシーサー作りなど文化を体験するツアーに参加し、それぞれのコースで楽しむ生徒の姿を見ることができました。

2日目の夕方から伊江島に渡りホームステイ、伊江島の子として泊し、おじい、おばあ、おとう、おかあの優しさに触れました。沖縄料理をふるまってもらったり、一緒にサーターアンダーギーを作ったり、島内を巡ったりと、とても充実した時間となりました。沖縄には「イチヤリパチョーデー（度会えば兄弟）」という言葉がありますが、「泊したらまさに家族です。島に着いたときに「おかえり」と迎えられた時はキトンとしていましたが、島を出るときは、「行つてらっしゃい」「行つてきます」と涙なみだで送られていました。最終日は嘉手納基地、首里城、国際通りを回る行程で、今の沖縄を感じる事ができました。

行事の成功には準備が欠かせません。各教科での事前学習や、学習委員、平和委員、クラス連の事前準備など、生徒も教員も十分な準備をして臨んだからこそ、充実した修学旅行にすることができました。

修学旅行を実施するうえで、多くの方にご助力いただき、生徒の心に残るものを作ることができました。お世話になった皆さま、ありがとうございます。

（2年生学年主任／滝 敏行）

平和学習について

太平洋戦争で激しい地上戦の舞台となり、県民の四人に一人が犠牲となった場所。そして戦後二十七年にわたってアメリカの施政下に置かれ、復帰後も日本における米軍基地が集中し、現在も新基地建設や墜落事故で揺れる島。沖縄は、「戦争」が過去のものでなく、「現在」の私たちに突きつけられた大きな問題であることに気づかせてくれる場所です。



修学旅行に向けた平和学習として、社会科では琉球の歴史や沖縄戦、基地問題を学び、国語科では集団自決に追い込まれた人々の心情を追体験するルポルタージュを読み、英語でも、死を覚悟しつつ白旗を掲げて投降した「白旗の少女」を読みました。読むだけでやりきれない思いになることであっても、多くの生徒が「このことを沖縄に行く前に知れてよかった」と書いているのに感心しました。また、多くの生徒が、「戦争というものは想像以上に悲惨なもの」と感じたのは、沖縄戦の体験者の証言を元に作られた映画「月桃の花」であったと思います。

同時に、修学旅行委員会の平和学習担当では、修学旅行で訪れる戦跡や基地を紹介する壁新聞を作成したり、各クラスごとにガマの中で朗読する『平和宣言文』の作成を行いました。クラスの生徒から集めた作文を元に、生徒たちが自分でまとめた宣言文は、素材な表現の中にも、この間の学習で感じた「平和」への願いが込められていました。

（平和学習担当／三井 陽子）

平和宣言文

私たちは沖縄に来るにあたりたくさんの事前学習をして来ました。そして戦争は多くのものを奪っただけでなく、人々の心に戦後何年が経過しても癒えることのない深い傷を残したものと分かりました。戦争とは、非人道的で人権を無視し、人々の生活をおびやかすものです。戦争が起こってしまったきっかけは、ほんのささいな出来事であったり、人々が気がつけば回避できるものではないでしょうか。戦争が起きないように世界が互いにゆずり合い、助け合い、支え合いの精神が必要だと思います。争い事が無い世界なんてそんなに簡単にはできないけれど、より多くの人が戦争の真実を知ることで争い事は少なくなるはずです。相手の生きてきた世界、文化、考え方を双方が理解し合い、武力で解決してしまおうとする考え方を無くしていくことで少しずつ平和は実現していくと思います。

人々が相手の気持ちを考え、思いやることを忘れずに行動、学習していくこと。それをこれからの生活や未来へとつなげていくことを、この沖縄の地で心に刻んでいきましょう。

同朋高校2年8組 一同

沖縄の修学旅行に向けて戦争について学ぶ前、私たちは戦争を軽く見ていました。過去の話であり、「いつまでも過去にとらわれていても仕方がない。」と思っていました。しかし授業や映画で当時のことを知るにつれてその考えが変わっていききました。

「平和とはなんだろう」と考えたとき、今までなら、ただ戦争が無い世界だと答えていたでしょう。しかし今は「毎日三食ご飯が食べられて、家族や友達とくだらないことで笑い合える今の自分の日常生活。」と答えます。戦争は笑うこともおいしいご飯を食べることもできず、人権や思想までも奪われてしまう。いつも死と隣り合わせで、今の私たちに想像もできないような恐怖と苦しみがあったと知りました。

平和な世界のために私たちができることは何でしょう。まずは相手の話をきちんと聞くことが平和に向けての第一歩。当たり前のことのように思えますが、それができていないために国どうしの喧嘩から小さな紛争が起き、やがて大きな戦争に結びついてしまうのです。

これ以上多くの人々の心を殺し、血と涙を流すことを繰り返してはいけません。

私たちのように戦争を軽く見ていた人、思い話は嫌だからと避けていた人に、戦争の真実を伝えたい。戦争がどんなに残酷であったかを次の世代へいつまでも語り継ぐことが必要です。この地で学んだことを今度は私たちが語り伝えてゆきましょう。

同朋高校2年11組 一同



修学旅行感想文

泣いて笑った修学旅行

202 大久保 摩耶
 (大治町立大治中学校出身)

1日目は主に平和学習で、戦争について学びました。戦争の話は難しいので、普段は詳しく知りたいたいと思うこともなく、そのまま、当日を迎えました。しかし聞かなければならない状況になって、たくさんのお話を聞きました。聞いた話は私の想像をはるかに超えるものばかりでした。ガマの話は特に怖かったです。あんなにも暗い所で何日も、人が住めるとは思えません。ガマの中でガイドさんの話を聞いたときは泣きそうになりました。

一番の思い出になったのは、2〜3日目の伊江島民泊です。出発前は不安しかなかったのに、それをかき消すくらいに優しさで包んでくれたおとうとおかあには感謝しかありません。帰りの船では涙が止まらなかったです。その時に思ったのは、「一緒に過ごした時間がどれだけ長いのか」よりも、「お互いがどれだけ思い合っているのか」の方が大切なかなあと感じました。

ディスカッションを通して

204 三輪 良乃
 (大治町立大治中学校出身)

1日目の夜にはパネルディスカッションが行われました。そのとき「戦争の話というのは、関ヶ原の戦いくらい過去の話だ」という話を聞いて、納得してしまいましたが、戦争と今の生活の違いについて、「この話が現在の基地問題につながっている」という想像ができませんでした。

沖縄の人たちの話を聞いていたら、そちらの意見に傾くだけになりました。沖縄の人たちの意見だけでなく、政府の話も聞きたい。私たちがもつと互いの意見を聞くべきだと思います。

私たちはもつと積極的に知るべきです。知ろうとするべきです。子どもも大人も関係なく、高校生の私たちも向き合わなければならないのだと思いました。

平和委員として

210 鮫島 由羽
 (名古屋市長崎立海中学校出身)

私は平和委員だったので、ガマの中で司会を務めました。「平和宣言文」を考えるのはとても大変で、うまくまとまらず、何度も何度も書き直したり消したりしていました。やつの思いで書き上げた宣言文を友達に読んでくれて、また平和ガイドの方に褒めていただき、必死に考えて書いた甲斐があったと思います。また、平和ガイドの方のお話は心に響くものがあり、戦争について、平和についてとても考えさせられました。自分の中で考えはまだ見つけられないけれど、絶対に二度とこのような悲劇を起こしたくないと、強く思うようになりました。



修学旅行日程
(1日目) 中部国際空港 → 那覇空港 → 平和ガイド各バス乗車 → 平和祈念公園 → ガマ見学 → 魂崎の塔・米須海岸 → ひめゆりの塔・資料館 → ホテル ホテル → コース別研修 → 本部港 → 伊江港 → 伊江島民泊 [コース別研修] ① エコネット美ら ② じゅんごんの里 ③ シュノーケリング + バイナッブルパーク + 美ら海水族館 ④ ナチシマツガマ + バイナッブルパーク + 美ら海水族館 ⑤ 恩納村観光協会 (三輪・琉球ガラス絵付け・シーサー・島ぞうり) + バイナッブルパーク + 美ら海水族館 ⑥ ガンガラーの谷 + バイナッブルパーク + 美ら海水族館
(2日目)
(3日目) 伊江島内研修 (民家体験学習) → 伊江港 → 本部港 → ホテル
(4日目) ホテル → 道の駅「嘉手納」 → 首里城見学 → 興行前〜国際通り散策 → 那覇空港 → 中部国際空港



「同朋オープン・フォーラム2017」報告

保護者・生徒・教員・大学教員・卒業生・市民とで「同朋高校の教育」を議論しました。

2017年11月18日(土)に「同朋高校オープン・フォーラム2017」を実施しました。今年度は、分科会後の「まとめの全体会」の討論時間を増やし、コメンテーターは10名の大学研究者にお願いしました。生徒会の協力もあり生徒の当日参加者は大幅に増加しました。

2年目の全クラス公開授業

今年の「公開授業」も、受付はPTA常任委員の方々に交代をお願いし、保護者が教室を参観しやすい10月4日に実施しました。生徒会が事前に「生徒授業アンケート」をとったほか、当日参加の保護者の皆さんには「授業見学者アンケート」を、さらに、授業者(教員)に、授業後「授業者アンケート」を実施し、そのアンケート結果には、保護者より「じっくり考える力・応用力・生きていく力を伸ばす授業、大学教員の出前授業などいろいろやっているのだから、満足です」「楽しく、わかる授業でよかったです」「1日の公開授業だったので、いろいろな授業が見れて良かった」「内容は難しい授業でしたが、わかりやすい説明に静かに聴いて理解しているようで安心しました」「個々の生徒を会話しながら、正解・不正解に関わらず、先生が同じ態度で教えていただき感謝」という声がある一方、「全体にざわわして緊張感がない印象がありました。ちゃんと聞いていれば、楽しくわかる授業なのに。残念」「生徒の忘れ物、多い!」「先生と生徒のコミュニケーション、もつととれるのでは?」...というものもありました。

教員からは、「生徒も緊張するので、たまにはいいかも」「内側に向かいがちな学校現場で、他教科の教員も含め、他者の目があることはいい。この数日、授業準備に精を出す教員を何人も見かけた」「保護者参観が少ない授業であっても、自分自身は過度の緊張感をもって授業にのぞめて良かった」「他教科の授業を機会は日ごろあまりないので、いろいろな教科の授業が見れて有意義だった」などの意見が寄せられました。生徒からは、「学びについて、喜びや苦労を感じたことはありますか?」の問いに、「楽しく、わかる授業に接した時が嬉しい」、「昨年までの苦手教科が、教えてもらって好きな教科になったことが嬉しい」、「テストや検定の勉強で苦労したが、点数や合格でかえってきた時が嬉しい」などといった意見がありました。



保護者・生徒・教員・市民、四者で考える3つの分科会

全体会に続き、3つの分科会に分かれての「学び」と「交流」の場を設定しました。「未成年の主張」をテーマとした第1分科会では、多くの生徒が参加し、「生徒事前アンケート」が生徒会副会長から報告され、卒業生も2名がミニ講演。高校生活、授業について話し合われました。



第2分科会では、「進路を自ら切り拓く〜挫折と成功〜」をテーマに、挫折体験からいかに自分を立て直し、進路選択で成功したかを2人の卒業生が報告してくれました。それにもとづいて生徒と質疑応答。保護者、卒業生保護者、教員、コメンテーターがそれを見守り、アドバイスする会となりました。

第3分科会では、「公開授業を終えての意見交流会」。当日は、英語科の石塚先生の公開授業風景映像と、国語科の久野先生の昨年12月放映された「ラップで古典授業」を見ながら、授業を終えた2人の先生と、実際に授業を受けた生徒たち3名が、感想を出しあい、そののち9つの分科会で「授業のあり方・進め方」についてフリートークしました。

まとめの全体会では、各分科会の様子を保護者代表が報告。各分科会参加のコメンテーターの方々からコメントをいただきました。コメンテーターのからは、「いろいろな角度で『同朋の教育』を分析してくれてよかった」「聞いていてためになるさまざまなコメントで飽きなかった」と大変好評でした。

高校生・保護者・教員・大学研究者...それぞれがお互いの意見を出し合い、さらに事後総括も行われることによって、次の教育のステージにつながると感じさせるフォーラム2017となりました。

(実行委員会事務局/宮城 道良)

●2017年度フォーラムのコメンテーター

- 松田 正久 先生 (同朋学園学監・元愛知教育大学学長)
- 別所 興一 先生 (元愛知大学教授)
- 前田 定孝 先生 (三重大学准教授)
- 石井 拓児 先生 (名古屋大学大学院准教授)
- 榊原 博美 先生 (愛知学院大学准教授)
- 小林 亮介 先生 (名古屋造形大学学長)
- 大橋 基博 先生 (名古屋造形大学教授)
- 下山 久之 先生 (同朋大学教授)
- 鶴田 禎人 先生 (同朋大学准教授)
- 川井 敏生 先生 (名古屋音楽大学特任講師)



(宗教主任/柏原 良教)

報恩講

共なるいのちを生きる

11月28日は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の祥命日です。親鸞聖人の教えを建学の精神とする本校は、本年度は11月24日に1年生全生徒が同朋大学・成徳館ホールに集いました。

報恩講とは、親鸞聖人をはじめ、今を生きる私たちがお念仏の教えを伝えてくださった先輩方に思いをいたし、その恩徳に感謝し報いる御仏事です。同時にそれは親鸞聖人の言葉に出遭い、自らの生活を振り返るお勤めでもあります。今年度の報恩講は、各学科の代表生徒による献花のほか、音楽科生徒のリードで「三帰依(パーリ文)」を唱和し、同朋大学学長の太田清史先生に法話をいただきました。太田先生ご自身の経験をお話しいただき、共なるいのちについて考えを深めることができました。

報恩講を通してお念仏の教えに出遭い、自分を見つめ直し、「同朋」という他者と認め合い、共に生きていける「縁」となれば幸いです。



Club & Award News

柔道部

- 平成29年度国民体育大会
男子少年団体の部 第5位 杉浦 冬唯(305/岐阜市立岐阜西中学校出身)
- 第40回尾張・名古屋・知多新人柔道体重別選手権大会
男子60kg級 第3位 長谷 晃希(203/名古屋市立一色中学校出身)
女子48kg級 第2位 伊藤 羅奈(207/小牧市立小牧中学校出身)
女子63kg級 第3位 柿原 宮七(204/一宮市立大和中学校出身)
女子78kg超級 第2位 宿院 麻帆(210/植田中学校出身)
- 平成29年度愛知県高等学校新人体育大会
女名南支部大会 女子団体 第1位
男子団体 第4位
女子48kg級 第3位 伊藤 羅奈(207/小牧市立小牧中学校出身)
女子63kg級 優勝 柿原 宮七(204/一宮市立大和中学校出身)
全国大会出場
- 平成29年度愛知県高等学校新人体育大会
女子団体 第3位
男子60kg級 第3位 長谷 晃希(203/名古屋市立一色中学校出身)

サッカー部

- 平成29年度愛知県高等学校新人体育大会名南支部予選
優勝 全国大会出場

陸上競技部

- 平成29年度愛知県高校新人対抗陸上競技大会
男子走高跳 第5位 奥村 集(204/名古屋市立長良中学校出身) 県大会出場
- 第45回名古屋地区陸上競技選手権
高校男子砲丸投 第7位 奈木野 京介(309/名古屋市立富田中学校出身)

ラグビー部

- 平成30年度第73回国民体育大会強化合宿参加選手
雲谷 拓晃(201/名古屋市立志賀中学校出身)
- 新人体育大会 ラグビーフットボール名南支部予選 第3位 県大会出場

女子バスケットボール部

- 選手権大会 県大会出場
- 平成29年度愛知県高等学校新人体育大会
名南支部予選会 第7位 県大会へ

女子蹴球部

- 全国高等学校女子サッカー選手権大会 フェアプレー賞

乗馬部

- 第42回前田記念馬術大会
ジャンピング90(1日目) 第2位 石井 亜海(101/桑名市立光風中学校出身) 第4位 小笠原 祐介(201/名古屋市立比津中学校出身)
LL級障害50 第2位 渡邊 紫苑(308/大治町立大治中学校出身) 第4位 舟橋 汰一(207/東海市立上野中学校出身)
ジャンピング90(2日目) 第1位 舟橋 汰一(207/東海市立上野中学校出身) 第2位 吉岡 陽(207/名古屋市立汐路中学校出身)
LL級障害40 第1位 黒田 英巨(109/名古屋市立波瀬中学校出身) 第2位 石井 亜海(101/桑名市立光風中学校出身) 第4位 加藤 颯馬(108/名古屋市立立神中学校出身) 第5位 岡本 めぐみ(106/大治町立大治中学校出身) 第6位 小笠原 祐介(201/名古屋市立比津中学校出身)
- 平成29年度愛知県高等学校馬術王座決定戦
障害飛越競技 第2位 舟橋 汰一(207/東海市立上野中学校出身)
馬場馬術競技 第3位 裏見 華音(201/名古屋市立はり中学校出身)
団体総合 第2位
- 平成29年度愛知県高等学校新人体育大会馬術競技
馬場馬術競技 第1位 石井 亜海(101/桑名市立光風中学校出身)
団体総合 第3位
- 平成29年度東海高等学校馬術王座決定戦
障害飛越競技 第2位 舟橋 汰一(207/東海市立上野中学校出身)
団体総合 第2位
- 平成29年度東海高等学校新人体育大会馬術競技
馬場馬術競技 第1位 石井 亜海(101/桑名市立光風中学校出身)
団体総合 第3位
- 柔友旗 女子団体準優勝

将棋部

- 第32回愛知県私学将棋大会
個人戦 Best 8 山浦 佳祐(209/名古屋市立南陽東中学校出身)

その他

- 名古屋造形大学トートバッグデザイン賞
勝田 真央(307/津島市立晩中学校出身)
森川 摩那(106/名古屋市立猪子石中学校出身)
山下 那海(106/稲沢市立大里東中学校出身)
吉川 綸香(111/名古屋市立山王中学校出身)
- 「税に対する高校生の作文」名古屋中村税務署長賞
原 瑞希(211/大治町立大治中学校出身)

一年生 キャリアセミナー

10月20日(金)に、1年を対象にしたキャリア教育を行いました。1学期は全体会として社会人の方の話を伺いましたが、今回は分散会形式で、生徒個々人の進路希望に合わせて卒業生を中心に、さまざまな業種で活躍する社会人の方の話を伺いました。講師の方々には、その仕事に就くに至った経緯、仕事の内容ややりがい、苦勞、必要な資格などについてお話いただきました。一般的な資料には出てこない「生の声」を聴くことができ、生徒たちは熱心に聞き入り、将来に夢を膨らませていました。(1年生進路担当より)



音楽科修学旅行

3月2日(金)から8日(木)の予定で、2年生音楽科の生徒がオーストリアへ修学旅行に出かけます。モーツァルトやベートーヴェンなど多くの音楽家たちのゆかりの地であるザルツブルクやウィーンを訪れ、本場の空気に触れてきます。また平和学習の一環としてナチスのマウトハウゼン強制収容所も訪れます。

修学旅行日程

- 【1日目】
中部国際空港→ヘルシンキ空港→ミュンヘン空港 → ザルツブルク ホテル
- 【2日目】
ホテル → ザルツブルク音楽研修(ミラブル宮殿、モーツァルト生家など) → ザルツブルク散策 → ホテル
- 【3日目】
ホテル → モントゼイ教会 → マウトハウゼン強制収容所 → ウィーン市立公園 → ホテル
- 【4日目】
ホテル → アウガルテン宮殿 → シュテファン大聖堂後ケルトナー通り散策 → シェーンブルン宮殿 → オペレッタ(こもり)鑑賞 → ホテル
- 【5日目】
ホテル → ベートーヴェン遺物の家 → シューベルト生家 → ケントナー通り散策 → 国立オペラ座内部見学 → オペラ「蝶々」鑑賞 → ホテル
- 【6日目】
ホテル → ウィーン空港→ハンジク空港→帰国泊
- 【7日目】
→中部国際空港

音楽科 第49回 卒業演奏会



去る1月10日(水)、伏見の三井住友海上しらかわホールにて、音楽科の第49回卒業演奏会を行いました。

この演奏会には毎年、オーディションにより選ばれた音楽科の3年生が出演し、電子オルガン・打楽器・マリンバ・声楽・ミュージカル・ヴァイオリン・トランペット、クラリネット・ピアノの各専攻生徒がそれぞれ高校生活の締めくくりとなるステージで熟演を繰り広げました。

また、今年度は音楽科の創設50周年のため、1・2年生も含めた音楽科生徒全員の合唱とオーケストラの演奏も行われました。長時間に及ぶ演奏会となりましたが、多くのお客様にご来場いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(音楽科主任/鐘木 勇樹)



商業科 マナー講座・ライフプランニング学習

商業科

昨今「賢い社会人」「賢い消費者」の育成が求められていると言われます。本校商業科は、こうした社会からの要望を受け、最前線で活躍する社会人から学ぶ機会を多く取り入れた教育を実践しています。

マナー教育の一環として、化粧品メーカー「株式会社アルビオン」と共同授業を実施しました。同社は、化粧品の対面販売に力を入れており、従業員に対する接客マナー教育を徹底していることが知られています。今回は、まもなく卒業する商業科3年生を対象に、あいきつ、姿勢、おじぎ、自然な笑顔といった点に力を入れた指導をいただきました。

その後、男子グループと女子グループに分けた実習に取り組みました。最近、男性に対するスキンケアの必要性も多くなり販売されています。そこで、男子生徒は「正しい洗顔法と日常の手入れ法」を学びました。一方、女性雑誌などでは、「流行のメイク法」特集がよく取り上げられています。そこで女子生徒は、流行ではなく「人から好感を持たれるベースメイク法」を学びました。こうした共同授業を通して、「マナー」として周囲に不快感を与えない人間へと成長する一助となったのではないのでしょうか。

また、消費者教育の一環として、商業科3年生を対象に「ライフプランニング学習会」を実施しました。昨年同様、ソニー生命株式会社のライフプラン

ナーにお越しいただき、夢のような贅沢な人生設計のシミュレーション後、専門家のアドバイスをもとに生活を見直しました。その結果、大きな負債を抱えることなく、また、やみくもに生活を切り詰めることもなく、家族旅行や一戸建ての取得といった夢を実現しながら、幸せな生活を送るシミュレーションとなりました。

生徒たちは、社会で活躍する社会人の姿を自分の目で見ることで、将来の自分の姿を重ねていくようです。今後も本校の教育活動に「理解いただける企業」と提携しながら、賢い社会人・賢い消費者を育成する教育に力を入れていきます。

(商業科主任/伊吹 剛平)

